

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価	学校関係者評価		
確かな学力	B	問題を見出し、解決するための思考力・判断力・表現力等を育成し、生涯にわたって学ぶ力を育てる	「理科する心」を育てる理科教育の推進 自ら問題を見つけ、問題解決に向けて意欲的に思考する授業づくり 基礎基本を身に付け、自らの思いをしっかり表現する力を育てる	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	問題解決の過程(キャリア教育の視点)を重視した授業研究(理科・生活)算数・国語・総合授業の実践交流 単元末思考力問題作成(理)	問題解決授業研究(理科4・生活2)の実施状況 単元末思考力問題集(理科版)の作成状況(+1単元) 総合的な学習の時間の見直しと、毎学期の情報交換実施	●2学期中に、全ての学年の授業研究を終えることができた。 ●単元末思考力問題は新たな単元で作成した。 ●1学期は吉田豊香先生をお招きして実践交流会を行い、2学期は職員会の中で進捗状況を確認した。	・実験結果からの考察力をつけるために講師を招聘し研修したり、意欲的な学習を行うための授業方法を研究したりしていく。 ・ストーリーのある総合を展開するために全体研修を行ったり、各学年の計画の見直しを進めたりする。	・昨年度の課題はおおむね達成されている ・本年度の取り組みの成果は 学力向上定着化で、指導面では講師を招いての研修等、教師の指導力向上に努められている。「家庭学習」「忘れ物」など、家庭との連携が必要なものに課題があるように思われるが、全体としては少しずつ前進していると思われる。 ・次年度に向けても研修を継続し、家庭と協力して、質と量を高める努力をする事に期待する。	A	
				チャレンジタイム・放課後子ども教室の活用	チャレンジタイム・放課後子ども教室と連携しながら、子ども達の学力保障を進める。	学力調査で1段階の児童を減少させる。	●4月の標準学力調査結果では昨年度より1段階の児童が5名減少している。				・評定1の児童に対する加力指導を進める ・標準学力調査の結果では説明文の読み取りがどの学年でも弱かったことから、説明文の指導について研修し、学年でつけるべき力を意識した授業を行う。
				子どもにわかる授業づくり(ユニバーサルデザインの発想を生かした)	理科・算数ノートの手引きの活用 話し合い名人カードを活用した授業研究 理科日記の実践 論点を明確にした「書く」指導の徹底 ユニバーサルデザインの研修	学校評価アンケート「授業がわかる」4件法で65%→70%以上「発言できる」肯定評価91.2→95%以上 ノートコンテスト定期実施状況(年間3回以上) 学校評価で「学習意欲を高めるような授業に努めているか」そう思う16.2%→25% ユニバーサルデザインの研修実施状況	▲「授業が分かる」53.1%(-11.9) ▲「発言できる」81.5%(-9.7) ○ノートコンテスト2学期まで実施 ●「学習意欲を高めるような授業に努めているか」そう思う 30%(+13.8) ●1学期に京極澄子先生を講師として、楠目小とユニバーサルデザインの合同研修会を行い、1・2学期に是永かな子先生を招いて児童の見取りと特別支援教育について研修を行った。				・「授業が分かる」という考え方を、教職員・児童で共通理解し、評価をしていく。 ・思考方法として、自らの考えを書ける子どもが増えてきているので、話し合いの前に考えを書かせ、ペア対話で交流した後、話し合いをさせるようにしていく。
				忘れ物を減らし学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	家庭学習の手引きの活用 家庭学習の工夫 個別学習課題等の個に応じた工夫(特別支援の必要な児童の実態に応じて) 自主学習の推進	通知表「生活の様子」で「家庭学習できる」評価児童が87%→90%以上「忘れ物をしない」児童が76%→80% 学校評価アンケート「家で宿題や予習をしている」(そう思う)86.1%→90% 自主学習を広げる	通知表「生活の様子」 ▲「家庭学習ができる」85%(-2) ▲「忘れ物をしない」73%(-3) 学校評価アンケート ▲「家で宿題や予習をしている」81.5%(-4.6) ●自主学習調べ一人当たり週3.2P→3.6P				・忘れ物調べを定期的に行い、家庭と協力しながら忘れ物を減らしていく。通知表は学年により評価基準が異なる場合があるので、全校で統一した調査から子ども達の忘れ物や家庭学習の状況を把握するようにしていく。
豊かな心	B	他者や社会、自然環境と共に生きる豊かな心を育てる	「感謝」と「協力」の心育て 読書活動の推進 道徳授業の充実 よさを認め合う関係づくり	図書環境の整備を進めるとともに保護者と連携し、親子読書を進める (親子読書6月11月2月) 読書目録冊数調査による評価を行う 道徳参観日の実施 「ありがとう・いいとこみつけカード」「ありがとうの手紙」の継続実施 地域とつながる教育で自尊感情と郷土愛を育む	読書目録冊数達成率が2学期末(11月)までに月平均が82%→85%以上になる。 キャリア形成に係るアンケート結果5・6年「自分には良いところがある」73.9→80% 「自分を大切に思える」4件法で56.5%→60% 「郷土への愛着」4件法で87%→90%を目指す。	○読書目録冊数達成率11月末までの月平均84%(+2) ●道徳参観日は、10月25日に実施。 ○参観日など、行事後には保護者から「ありがとう・いいところ見つけカード」を書いていただく機会を意図的に設けていく。 ●「ありがとうの手紙」は、書くことが日常化し、心を込めて書けるようになってきている。受け取った地域の方も、喜んでくださっている。 キャリア形成に係るアンケート結果5・6年 ●「自分には良いところがある」83%(+9.1) ▲「自分を大切に思える」4件法で50%(-6.5) ▲「郷土への愛着」4件法で83%(-3)	・地域の方からの児童への評価を聞き取り、教師が代筆するなど、地域の方からの声を児童へ届けることを優先する。 ・地域の方に、「ありがとう・いいところ見つけカード」を書いていただく機会を意図的に設けていく。 ・「ありがとう・いいところ見つけカード」への取組は、テーマがはっきりしているときはたくさん取り組めるので、児童が取り組みやすいテーマと期間を設定する。	・昨年度の課題はおおむね達成されている。 ・本年度の取り組みの成果として「ありがとう・いいとこみつけカード」「ありがとうの手紙」等の取り組みは、非常に良いと思う。地域とのつながりも良好で自己表現力が付き、達成できている。 ・自己アピールが少し弱いように思えるが、低学年は肯定的になっている。読書活動も活発で、子どもたちが喜んで本を借りている。 ・次年度に向けての課題はキャリア形式のアンケートの結果を今後の改善方法に入れていないのは疑問。自己肯定感、成長の上でも非常に大切だと思われるので、一層の向上を望み、いいところを褒め合う成長カードとして、次年度も継続発展される事を期待する。	A		
				心身共に健康で、たくましく、安全に留意して意欲的に運動する力を育てる	体育授業の充実 運動習慣の確立	体育の授業研修の実施 低・中・高合同授業で意欲化を図る 体力づくりのための5分間運動の実施 体育アンケートの内容検討と実施 習慣形成に向けた個に応じた指導の工夫(運動の有用性を高める)	体力テスト総合点D・Eが減少する。(19%→15%以下) 「シャトルラン」「50メートル走」の得点で向上を図る。 運動習慣30分以上(下学年)1時間以上(上学年)の達成率が69.4%→73% 運動の有用性を高める 体育アンケートで「体育をすると体が丈夫になる。」94%→90%台を維持する	▲1学期の体力テスト総合点D・E28%(-9) その後、体育の授業で走る活動を意識的に取り入れたりと、陸上記録会等では朝練や放課後練習を行い運動習慣が身につくよう取り組んだ。その結果、2学期の体力テストはDE.12%に減少した。 ●運動習慣30分以上(下学年)1時間以上(上学年)は、全学年73%以上(+3.6) ●体育アンケートの「体育をすると体が丈夫になる。」の児童は100%(+6)		・今年度は体育館工事のため、暑い時期の体力テストとなってしまうので、来年度は体を動かしやすい時期を考慮して体力テストに取り組む。 ・体育の授業導入時に、体力テストの弱点種目に全校で取り組む。	・昨年度の課題はおおむね達成されている。 ・本年度の取り組みで体力テスト総合点DEが減少している(28%→12%)ことは素晴らしい。運動習慣の確立やアンケートは非常によい。保護者のスポーツクラブが始まり、それに子どもたちが一緒に出てきてよい成果がでている。 ・体育をすると体が丈夫になる事を100%の児童が自覚している事はすばらしい。次年度も体を動かす事を意識的にし、種々工夫しながら、体力向上に励んでほしい。
保護者地域との連携	A	信頼される開かれた学校づくりを進める	保護者や地域との円滑なつながりを確立する 保護者や地域の学校教育への関心を高め、コミュニティ・スクールの組織作りを模索する。	地域に情報発信を行い、地域と創るキャリア教育を進める 隣接する高知工科大学の力を学校経営に活かす。 コミュニティ・スクールの実施と、学校運営協議会の活用	学校の様子を学校だよりで地域に配布。 学校だより年間70号を目標とする。 高知工科大学のサポーター・ボランティア受け入れを行うとともに地域の土曜活動を取り入れる。 コミュニティ・スクールの取組を保護者・地域に発信していく。(CS便り等) 学校運営協議会を年間5回実施し、運営協議会の意見を積極的に取り入れる。	●学校だよりは1月現在103号 ●高知工科大学のサポーターさんが学習支援に入ってくれている他、各種サークルの学生さん達がパソコン教室や、星空観察会、チャレンジクラブ支援等ボランティア活動を行って下さっている。 ●12/3「門松作り教室」を土曜活動として実施 ○CS便りは学校便りと併用して毎月地域に配布している。 ●1月現在学校運営協議会を4回実施。会で提案されたカレンダー作り、片地家地図作りを計画。	・片地家地図作りを進め、地域協働学校を視覚化し、活動への関心を高める。 ・高知工科大学との連携を密にし、新たな活動へつなげる。	・昨年度の課題の取り組みと達成が一致している。 ・本年度の取り組みの成果は学校だよりにより、学校の様子が手に取るように分かる。目標70号に対して、1月現在まで103号まで発行出来ている。民生委員により学校だよりが地域につながっている。伝統的に地域の連携協力が得られているが、それに加え、高知工科大学生のサポーターが学習支援や各種活動へのボランティアとして関わってくれている。駐在所との連携もできていて、子どもたちのキャリア教育にもつながっている。 ・次年度も工科大との連携を深めていく事を期待する。 ・CSの取り組みを保護者、地域へ発信していくこと、学校の先生方のCSの取り組みを進めてほしい。	S		
命を守る教育	A	命の大切さを知り、自らの健康を維持するとともに、自分の命を自分で守る手段と態度を身に付ける	防災・安全教育の充実を図る 健康教育を推進する	避難訓練・防災学習の計画的な実施 高知県安全教育プログラムに基づいた授業の実施 災害用備品の整備 生活リズムチェックカードの実施と結果分析・活用 食育の推進 歯と口の健康を守る指導の徹底	避難訓練・防災学習の計画的な実施状況 地域・保護者とともに防災学習を行う。 非常持ち出し袋の整備状況を調査し、整備率を上げる。 PTAの中で防災士資格者を増やす。 生活リズム名人が全校の60%→65%以上。 生活リズムチェックカードの中で毎日朝食を食べる児童(97.5%→100%) 上級生でお弁当当りの体験を行う。 歯磨き教室の実施状況と歯磨き習慣の定着状況 毎日朝晩歯みがきをする(77.5%→85%)	●計画的に避難訓練・防災学習を実施してきた。 ○9/10防災参観日を実施するも自主防に呼びかけできず。 ●非常持ち出し袋の整備率77.3%(+30.3) ●PTA防災士資格者 5人(+3人) ○生活リズム名人64%(+4) ▲「毎日朝食を食べる」93.9%(-3.6) ●12/2 6年生お弁当当り実施 ●6/23 歯みがき教室実施 ●「毎日朝晩歯みがきをする」85.3%(+7.8)	・自主防災組織との連携を図っていく。 ・防災士資格者は計画的に増やしていく。 ・朝食を食べてこない児童をなくすために、栄養教諭と連携しながら、食育を進める。	・昨年度の課題はおおむね達成されている。 ・本年度の取り組みで避難訓練・防災学習を実施している。 ・非常持ち出し袋の整備率が大幅に向上していると思われる。PTA防災士資格者が増員できた事は非常に良い。今後とも防災士資格者は計画的に増やしていく事を期待する。 ・食育にも力を入れている。 ・「朝食を摂る」を100%を目指し頑張してほしい。 ・食育を通じ、「命や体を大切に心」を育む取り組みを継続される事を望む。	A		